

平成29年度 支え合うきよせ委員会 A（地域資源・ニーズ把握）部会
第1回 会議録（案）

日時	平成29年5月16日（火）14：20～	場所	健康センター 第二会議室
出席者	内田部会長、田中副部会長、名古屋委員、金川委員、小野委員、福嶋委員 田島委員、阿久津委員 事務局：関口課長、吉村（市包括） 関係者：鍵和田（生活支援コーディネーター）		

1 部会長・副部会長互選

(1) 名古屋委員からの推薦で、内田委員を部会長に、田中委員を副部会長に選任。

2 議題

(1) 本日の部会の進め方について

部会委員より、ポストイットを使った個人ワークをせずに直接討議に入りたいと意見があり、進め方を変更。

(2) 部会検討事項について

ア 団体の活動状況の把握と意識啓発について

以下の意見を踏まえ、団体の活動状況の把握と意識啓発については、団体に対して個別に訪問するのではなく、いくつかの団体を集めて実施する集合方式で実施する。うかがう内容については生活支援コーディネーターが案を作成する。

- ・ 地域で活動している団体の活動状況把握については、いきなり困りごとを聞いていくのではなく、活動の現状をうかがう中で課題や問題点と感ずることをうかがう。
- ・ サロン活動の活動状況把握については、参加者の声を聞くという方法もある。しかし、同じ場で活動団体の運営者と参加者の両者から話を聞くと本音を引き出せないおそれがあることから、今回は団体側の話を中心にうかがう。
- ・ 訪問先の候補として、市内には自治会が170、サロンが50、老人クラブが24、その他、社会福祉法人やNPO法人などが多数ある。今回の活動状況把握や意識啓発では、自治会やサロン、老人クラブを対象とする。
- ・ 委員数人で自治会などの団体に訪問すると、面談のようになってしまい聞きたいことが聞けなくなる恐れがある。活動状況把握と意識啓発については、訪問方式ではなく10人くらいにお集まりいただく集合方式として行っていく

イ 訪問を開始するモデル地区について

以下の意見を踏まえ、モデル団体ではなくモデル地区という考え方に立ち、地域包括支援センターごとに1つモデル地区を選定することを目指す。どこの地区をモデルにするかについては、引き続き検討を行う。

- ・ 複数ではなく、一つの団体を選定して支え合いの取り組みを進める「モデル団体」という意見もでたが、地域の中で支え合いに関心のある人を増やしていきたいことから、モデル団体ではなくモデル地区という考え方に立って取り組み

を進める。

- モデル地区の取り組みを参考に、周囲の丁目などを巻き込む形で取り組みの輪を拡げていきたい。
- 当面はモデル地区を一つ選定し、段階的に各地域包括支援センターに1つモデル地区ができるとよいのではないか。

ウ 第二層生活支援コーディネーターが担う役割について

委員より、第二層の生活支援コーディネーターがどのように活動するのがイメージできないという意見あり。次回の協議体までに事務局内で検討する。

- 10月以降は、各地域包括支援センターに配置される第二層の生活支援コーディネーターには訪問に参加してもらおう。